

新潟本社行動計画の取り組み状況について



2018年3月30日
東京電力ホールディングス株式会社
新潟本社

1. 安全性向上の取り組み

2. 運営体制の構築の取り組み

3. 防災支援の取り組み

NEW ① 柏崎市内に防災・避難支援専門要員14名が常駐

NEW ② 緊急時の初動要員を約140名体制へと増員

4. 地域貢献の取り組み

5. 傾聴と対話の取り組み

① 各戸訪問

② 東京電力コミュニケーションブース

③ 地域の皆さまへの説明会

④ トークサロン

⑤ 発電所視察対応

⑥ 広告

1. 安全性向上の取り組み

概要

- 「安全意識」「技術力」「対話力」を向上させるため、原子力安全改革プランを実行
- 新規制基準適合性審査（以下、審査）への真摯な対応
- 1 F 事故の反省を踏まえた安全対策の着実な実施
※個別具体的な取り組み状況について、原子力安全改革プラン進捗報告にて定期的に報告

主な取り組み

<事故を防ぐ>

- 1 F 事故の反省と教訓を踏まえた、自主的な安全対策を実施
- 綿密な断層調査による活動性評価及び保守的な基準地震動の策定
- 厳格な審査を通じた、更なる安全性向上と継続的な改善



<止める（事故対応の技術的能力の向上）>

- 事故対応時に迅速・的確な意志決定が図られるよう、米国などの緊急時対応体制である、ICS（災害時現場指揮システム）の考え方を導入
- 過酷な状況を想定し、さまざまなシナリオによる訓練を継続的に実施し、技術的能力を向上



1. 安全性向上の取り組み

主な取り組み

<冷やす>

- 電源喪失時も原子炉の冷却が可能となるよう、高圧代替注水設備の設置、消防車や大容量送水車の配備等、冷やす機能を多様化、多重化



<放射性物質を閉じ込める・減らす>

- 既存の除熱システムに加えて、圧力容器と格納容器内の除熱が可能なる「新除熱システム」を開発し設置
審査では、フィルタベントと同等以上の効果があり、ベントに優先して使用すべき設備として評価され、他のBWRプラントにも設置を義務付け
- 万が一のベントに備え、放射性物質の放出を大幅に低減するフィルタベント装置を設置



2. 運営体制の構築の取り組み

概要

- 新潟本社の設置
- 原子力事業の社内カンパニー化を予定
- 新潟県知事の掲げる3つの検証へのご協力

主な取り組み

- 2015年4月新潟本社設立
 - 柏崎刈羽地域での説明会や県内全域における対面でのご説明
 - 柏崎刈羽原子力発電所などの当社施設の見学機会の拡大・強化
 - 関係自治体等とご相談し、原子力防災の充実や実効性ある避難支援策の策定に向けた検討・実施
 - 行動計画の活動拠点として、柏崎市内に「まもる・そなえる・こたえる」オフィスを開設。フリーアドレスを導入し、社員が車座になって議論を進めながら、新潟県内の地域対応等を強化
- 3つの検証へのご協力
 - 新潟県技術委員会へのご説明32回（発電所視察含む）
 - 福島事故検証課題別ディスカッションへのご説明33回
 - 避難委員会による発電所ご視察対応（3/29）

<まもる・そなえる・こたえるオフィス>



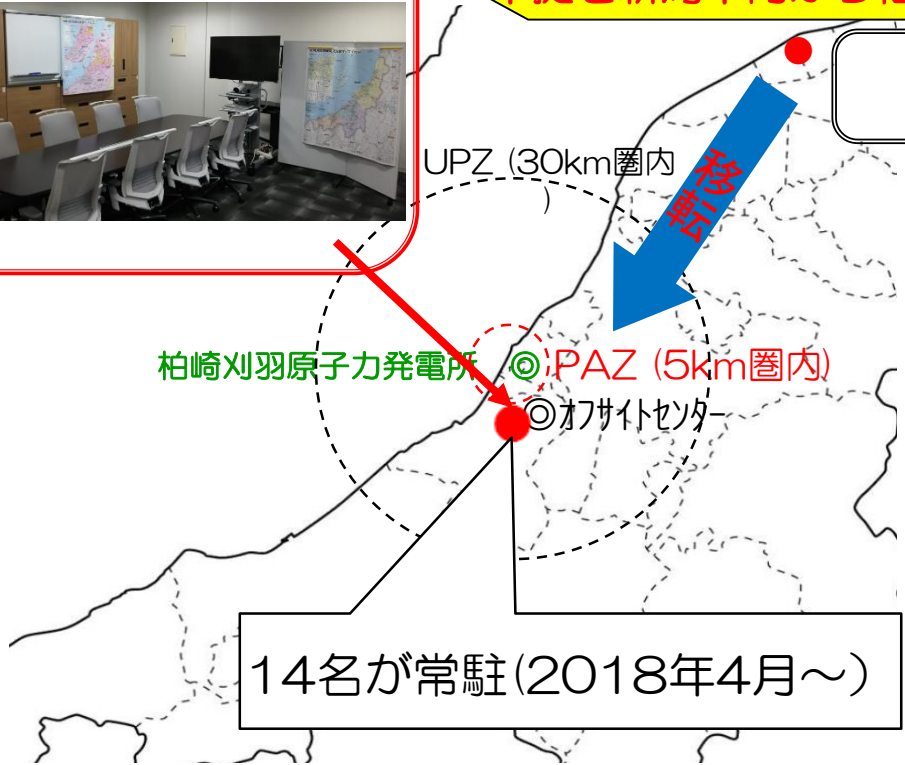
3. 防災支援の取り組み ① 柏崎市内に防災・避難支援専門要員14名が常駐

- 2018年4月に「避難支援チーム」の活動の本拠を、現在の新潟市内から、柏崎市内に開設する「まもる・そなえる・こたえる」オフィスへ移転し、防災や避難支援業務を専門とする社員14名が常駐
(→移転後の活動内容については、次頁を参照)

「避難支援チーム」の活動の本拠を柏崎市内へ移転




2018年4月に「避難支援チーム」の活動の本拠を新潟市内から柏崎市内に移転



3. 防災支援の取り組み ① 柏崎市内に防災・避難支援専門要員14名が常駐

- 避難計画に関する地元の皆さまのご意見やご不安の声をしっかりと受け止める活動を強化
- PAZの避難支援活動を想定した訓練と改善のサイクルを継続的に展開
- 更に、概ね30km圏内(UPZ)の避難支援活動を含めた避難支援組織の拡充と強化

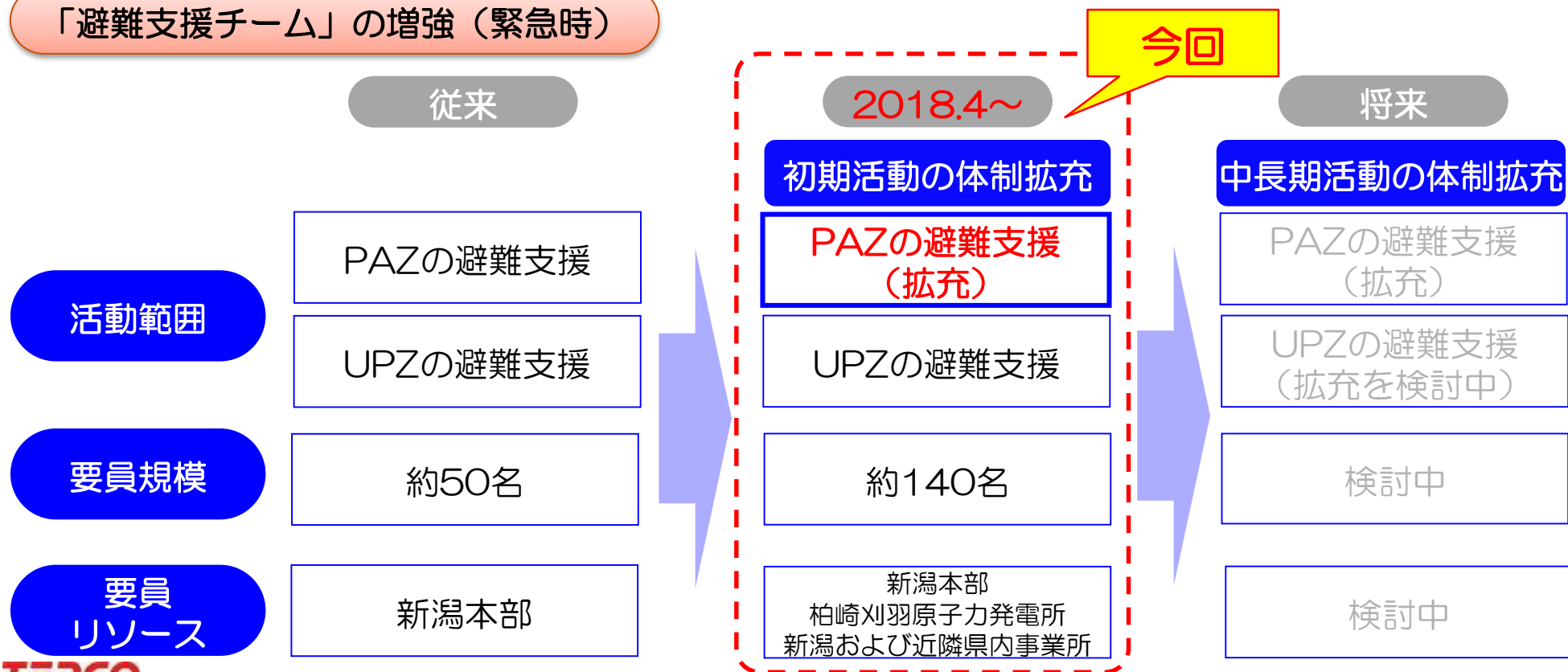
4月からの活動内容（平時）

活動分野	内容
<p>①防災や避難に係わる地元の皆さまのご意見やご不安の声をしっかりと受け止める活動の強化 [実効性を高めるための実態把握と役割整理]</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">より現地のニーズにあった活動へと進化</p>	<p>a. 地元の皆さまと直接触れ合う機会を増やし、これを通じた傾聴活動を推進</p> <p>b. 自治体、実動機関(消防・警察・自衛隊)、医療・社会福祉関係者(PAZ圏内及び近傍の病院・福祉施設等)など専門的立場の方々から直接ご意見を伺う機会を増やし、当社の活動へ反映</p>
<p>②PAZの避難支援活動を想定した訓練と改善による力量向上 [実動可能な力量向上への備え]</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">クイック&パワーアップ</p>  <p style="text-align: center;">オフサイトセンター訓練風景</p>	<p>a. 要員参集・指令訓練</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶現場活動を行うための速やかな参集および情報連絡 ▶発電所・新潟本部・オフサイトセンター・本社連携強化 <p>b. 支援活動実動訓練</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶要配慮の方々、福祉施設・病院等の避難補助 ▶避難経路所開設・運営(受付・案内補助・除雪・車両誘導等)の補助 ▶退域時検査所を想定したスクリーニングの補助 <p>c. 基礎訓練(介護や防災に関わる講習・資格取得、車両等運転)</p>
<p>③避難支援組織の拡充と強化</p>	<p>a. 自治体、実動機関(消防・警察・自衛隊)、医療・社会福祉関係者(PAZ圏内及び近傍の病院・福祉施設等)など専門的立場の方々から伺ったご意見や、訓練結果に基づく必要資機材物品調達</p> <p>b. UPZの避難支援活動体制整備</p>

3. 防災支援の取り組み ② 緊急時の初動要員を約140名体制へと増員

- 2016年10月より、新潟本部の社員約50名を初動要員とする体制で運用を開始した「避難支援チーム」について、本年4月1日から、新潟本部、柏崎刈羽原子力発電所、新潟県および近隣県内事業所との協働体制を確立することにより、初動要員を約140名体制へと増員。
- これにより、概ね5km圏内(PAZ)の避難支援を行う初期活動の体制を拡充
- 更に、概ね30km圏内(UPZ)の避難支援活動の体制の拡充についても検討中

「避難支援チーム」の増強（緊急時）



3. 防災支援の取り組み ② 緊急時の初動要員を約140名体制へと増員

緊急時における初期活動(PAZの避難支援)の体制

- 約140名による初期活動の体制に拡充
- 今後、訓練を重ねてクイック&パワーアップを実現

→ 要員の動き

UPZ(概ね30km圏)

PAZ(概ね5km圏)

柏崎刈羽原子力発電所

福祉施設・病院

「まもる・そなえる・こたえる」
オフィス

新潟本部

村上方面
避難経由所湯沢方面
避難経由所妙高・糸魚川方面
避難経由所

新潟および近隣県内事業所

	活動内容	要員 リソース
初期活動	①介護を必要とされる方々の避難支援 (福祉車両・バス等の運転、移動介助)	新潟本部、 柏崎刈羽 原子力発電所
	②福祉施設・病院 (屋内退避施設)の運営支援 (介護補助、物資補給)	
	③PAZ避難経由所の運営支援 (開設、案内・介助、車両誘導)	新潟および 近隣県内 事業所

4. 地域貢献の取り組み

○小千谷市内サケ稚魚放流（2018/2/22）

- ・作業内容：稚魚放流のお手伝い
- ・参加者：信濃川事業所
信濃川電力所 計 10名

○津南雪まつり（2018/3/5～12）

- ・作業内容：準備作業・駐車場整理・後片付け
- ・参加者：信濃川事業所
信濃川電力所 計 14名

○飯山市内稚魚放流学習体験会（2018/3/13）

- ・作業内容：稚魚放流のお手伝い
- ・参加者：新潟本部社員
信濃川事業所
信濃川電力所 計 9名

○津南町内サケ稚魚放流（2018/3/14）

- ・作業内容：稚魚放流のお手伝い
- ・参加者：信濃川事業所
信濃川電力所 計 11名



4. 地域貢献の取り組み

<今年度の実績>

イベント	実施日	作業内容	参加者数
クリーンナップ上越2017	2017/4/16	高田城百万人観桜会の会場清掃	10名
信濃川河岸段丘ウォーク	2017/4/29	マラソン運営の補助	4名
柏崎潮風マラソン	2017/5/21	マラソン運営の補助	18名
第6回十日町市民協働の森づくり植樹祭	2017/6/4	植樹のお手伝い	9名
柏崎市えんま市会場早朝清掃	2017/6/15~16	会場清掃	58名
柏崎市えんま市会場への付き添い	2017/6/15~16	特別養護老人ホームに入所されている方の付き添い	3名
NPO法人湯沢みどりの会 第18回植樹会	2017/6/19	植樹のお手伝い	4名
柏崎市荒浜海岸清掃	2017/6/20	海岸清掃	107名
中津川運動公園環境整備	2017/7/12	除草作業	14名
ぎおん柏崎まつり海の大花火大会	2017/7/27	海岸会場清掃	23名
長岡まつり大花火大会	2017/8/3~4	花火大会会場における清掃	14名
越後湯沢秋桜ハーフマラソン	2017/9/24	マラソン運営の補助	16名
魚沼川河川清掃	2017/10/1	河川清掃	3名
柏崎マラソン	2017/10/29	マラソン運営の補助	22名

5. 傾聴と対話の取り組み ① 各戸訪問

- 新潟本社の社員が柏崎市、刈羽村の皆さまのご家庭を戸別に訪問させていただき、ご意見やご要望を直接お伺いするとともに、発電所視察のご案内や安全対策等の取り組みをご説明する活動を実施。
- 今年度は2017年5月～9月に実施。審査会合の状況や安全対策等の取り組みについてお伝えするとともに、免震重要棟の耐震性に関する問題について経緯や原因をご説明し、地域の皆さまにご心配をおかけしていることに対してお詫びさせていただきました。

訪問実績

- 第1回目 2015年6月～9月
- 第2回目 2016年5月～9月
- 第3回目 2017年5月～9月

訪問先

- 柏崎市と刈羽村にお住まいの皆さま
- 約41,000軒を訪問



(参考：訪問時の配布資料イメージ)

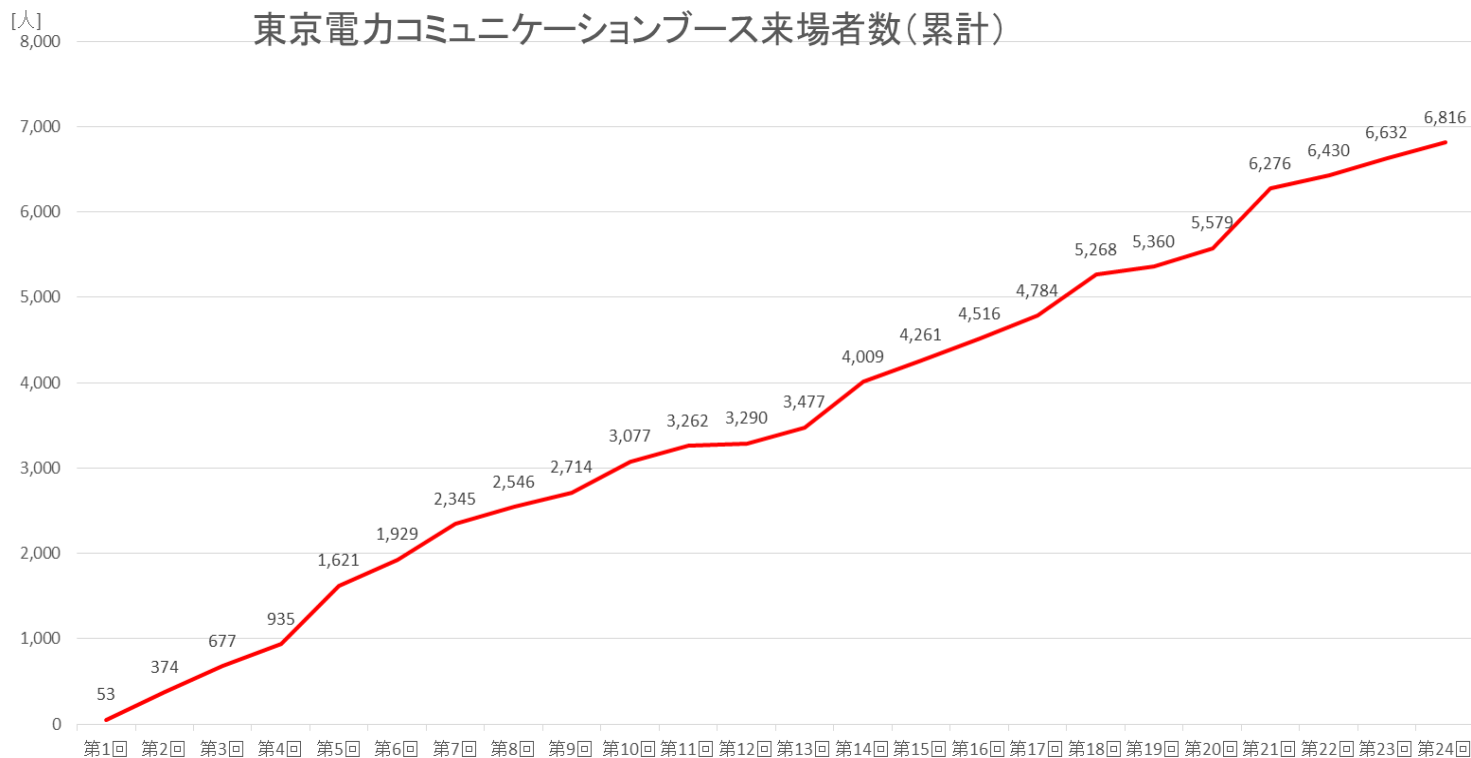
5. 傾聴と対話の取り組み ② 東京電力コミュニケーションブース

実施内容

- 上越・中越・下越地域それぞれに「東京電力コミュニケーションブース」を設置し、皆さまのご意見をお伺いするとともに、パネル展示等を通じて発電所で講じている安全対策や放射線など原子力発電全般についてご説明。6・7号機の原子炉設置変更許可に関するご説明も実施。

<開催実績>

- 上越市 (7回実施)
- 長岡市 (5回実施)
- 新潟市 (6回実施)
- 小千谷市 (1回実施)
- 見附市 (2回実施)
- 新発田市 (1回実施)
- 南魚沼市 (1回実施)
- 燕市 (1回実施)



<今後の開催予定>

- 3月31日(土) 9:00~16:00 刈羽村高町地区集会場
- 4月4日(水)~8日(日) 10:00~17:00 村上市 荒川ショッピングセンターアコス

5. 傾聴と対話の取り組み ② 東京電力コミュニケーションブース

- 南魚沼市で、10月27日～10月31日まで開設したコミュニケーションブースにおいてVR（バーチャルリアリティ）を初めて導入し、臨場感ある映像でKKの安全対策をご紹介。



コミュニケーションブースでの様子

防潮堤やガレキ撤去車などの安全対策設備をご紹介するVR



新除熱システムをご紹介するVR



※新規制基準適合性審査でご指摘いただいた1～4号機側防潮堤に関する耐震上の課題についても、あわせてご説明しております。

5. 傾聴と対話の取り組み ③ 地域の皆さまへの説明会

- 柏崎市と刈羽村において、地域の皆さまからのご意見を伺い、発電所の状況や当社の取り組みをお伝えする貴重な場として「地域の皆さまへの説明会」を実施。
- 2018年1月30日と1月31日に、新規制基準への適合性に係る原子炉設置変更許可に関する内容と、安全対策の取り組みについてご説明させていただいた。

開催実績（新潟本社設立以降）

日時	場所	参加者数
2015/6/8	刈羽村生涯学習センター ラピカ	64名
2015/6/9	柏崎市産業文化会館	128名
2015/12/21	柏崎市産業文化会館	128名
2015/12/22	刈羽村農村環境改善センター	44名
2016/9/13	柏崎市市民プラザ	79名
2016/9/14	刈羽村 高町地区集会場	24名
2018/1/30	柏崎市産業文化会館	98名
2018/1/31	刈羽村生涯学習センター ラピカ	52名



5. 傾聴と対話の取り組み ④ トークサロン

- 柏崎刈羽原子力発電所の立地地域にお住まいの女性や子育てをされている方々を対象として、年間を通してトークサロンやカルチャー教室を実施。
- 発電所の取り組みをお伝えするとともに、立地地域の皆さまと新潟本社職員との対話活動を実施。

開催実績（2017年度）

時 期	場 所	主な内容	参加者数
2017.4	<ul style="list-style-type: none"> ・柏崎エネルギーホール ・柏崎刈羽原子力発電所サービスホール 	<ul style="list-style-type: none"> ・トークサロン ・カルチャー教室 	63名
2017.5	<ul style="list-style-type: none"> ・柏崎エネルギーホール ・柏崎刈羽原子力発電所サービスホール 	<ul style="list-style-type: none"> ・トークサロン ・カルチャー教室 	22名
2017.6	<ul style="list-style-type: none"> ・刈羽ふれあいサロン「き・な・せ」 	<ul style="list-style-type: none"> ・トークサロン ・カルチャー教室 	37名
2017.7	<ul style="list-style-type: none"> ・刈羽ふれあいサロン「き・な・せ」 ・柏崎エネルギーホール 	<ul style="list-style-type: none"> ・農涼まつり ・トークサロン ・カルチャー教室 	180名
2017.8	<ul style="list-style-type: none"> ・柏崎エネルギーホール ・柏崎刈羽原子力発電所サービスホール 	<ul style="list-style-type: none"> ・トークサロン ・カルチャー教室 	16名
2017.10	<ul style="list-style-type: none"> ・柏崎市市民プラザ ・柏崎エネルギーホール 	<ul style="list-style-type: none"> ・トークサロン ・カルチャー教室 	42名
2017.11	<ul style="list-style-type: none"> ・刈羽ふれあいサロン「き・な・せ」 	<ul style="list-style-type: none"> ・カルチャー教室 	138名
2018.1	<ul style="list-style-type: none"> ・柏崎刈羽原子力発電所サービスホール 	<ul style="list-style-type: none"> ・トークサロン 	13名



トークサロン



カルチャー教室

5. 傾聴と対話の取り組み ⑤ 発電所視察対応

- 新潟県内をはじめ、より多くの皆さまに福島第一原子力発電所の事故を踏まえた安全対策をご覧いただくため、柏崎刈羽原子力発電所の視察対応を継続的に実施。

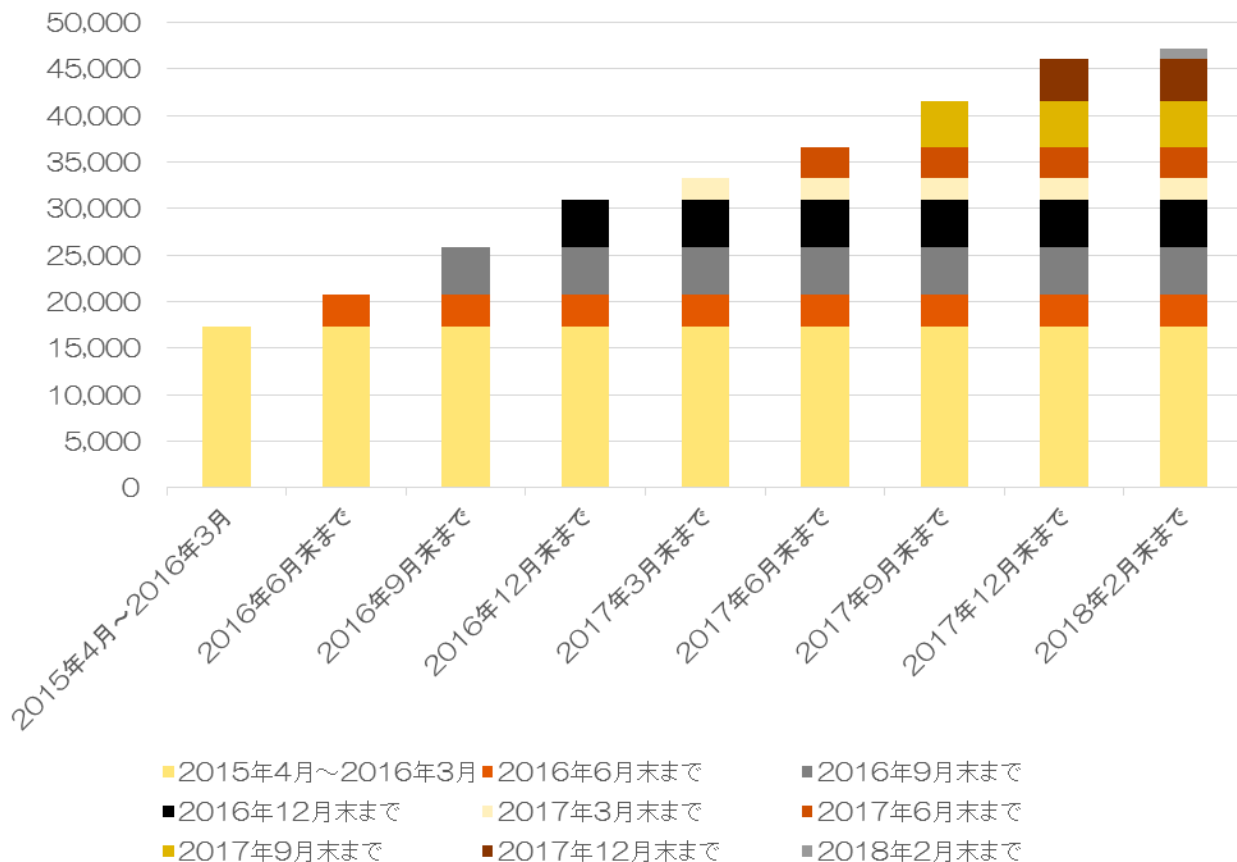
【防潮堤（5～7号機側）】



【電源車】



【発電所視察数(累計)】



5. 傾聴と対話の取り組み ⑥ 広告

- 福島第一原子力発電所事故の反省と教訓を踏まえ、柏崎刈羽原子力発電所で講じている安全対策や当社の取り組み等を、新潟県内の一人でも多くの皆さまにお伝えするため、各メディアを通じた広告を実施。

- 「東京電力通信 第5号」を発行。柏崎刈羽原子力発電所6、7号機に関する原子炉設置変更許可をいただいたことや、今後の新規制基準の許認可の流れなどをお知らせ。
- 新潟県内の民放各局、ラジオ各局において柏崎刈羽原子力発電所の安全対策の状況をお伝えするTVCM、ラジオCMを実施。
- 同様に新潟県内限定で新聞、雑誌広告を展開。

TEPCO 東京電力通信 第5号 2018年2月発行

今日の
お知らせ

- 6、7号機の新規制基準への適合性について
- 新規制基準に関わる許認可のながれ
- 新規制基準への主な対応

柏崎刈羽原子力発電所6、7号機の 原子炉設置変更許可をいただきました

引き続き、新規制基準の審査、県の検証、皆さまへのご説明に
真摯に取り組んでまいります

昨年12月27日、当社は、原子力規制委員会より柏崎刈羽原子力発電所6、7号機の原子炉設置変更許可をいただきました。2013年9月27日に原子炉設置変更許可申請をして以降、審査がすすむ過程において様々なご指摘をいただくことで、安全対策等に関する基本的な考え方は、新規制基準の求めるレベルに達することができたと考えております。今後、工事計画認可申請および保安規定変更認可申請の審査に対応していくとともに、新潟県の掲げる9つの検証に、当社としても全力で対応してまいります。当社は、柏崎刈羽原子力発電所の更なる安全性・信頼性の向上に努め、皆さまのご懸念に対して真摯に説明を尽くしてまいります。

新規制基準に関わる許認可のながれ



<2018年2月 発行>